

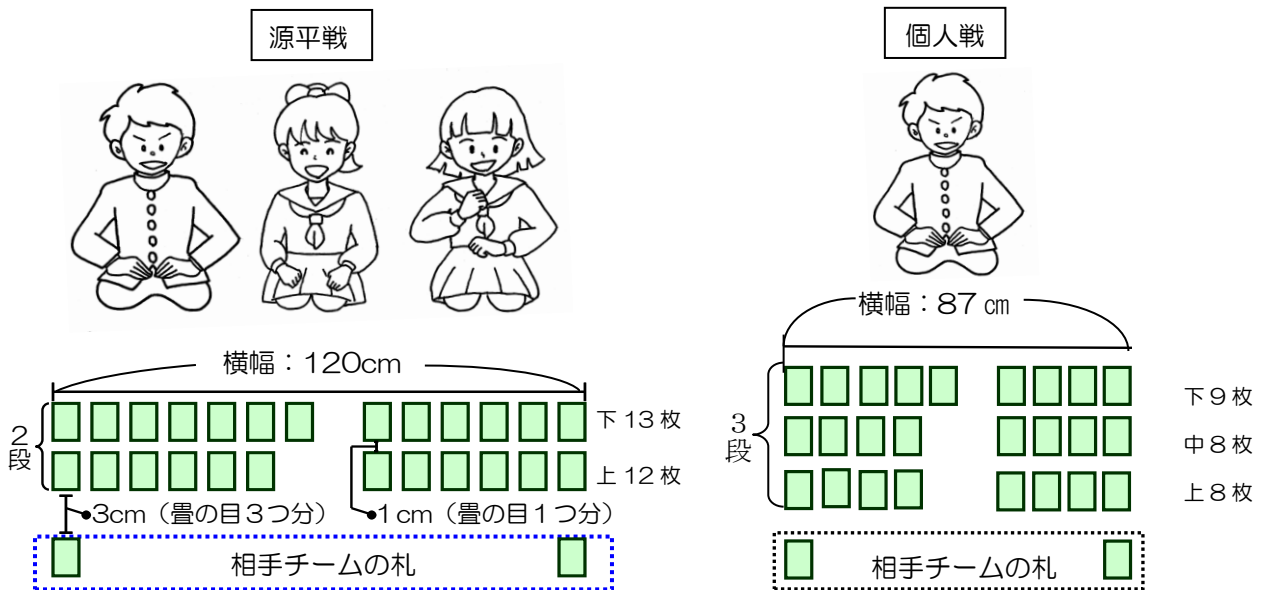
# 第15回「あだち子ども百人一首大会」ルール

## 1 競技形式

- (1) 3人1チームの源平戦及び個人戦を行います。
- ①当日の受付時まで名簿変更可能とします。  
源平戦で、当日欠席によりどうしても3名に満たない場合でも参加可能です。ただし、勝利しても【枚数差は0】とします。
  - ②受付時間を過ぎても受付していない場合、【欠席】とみなします。
- (2) 各25枚の持ち札とし、自陣の札が早くなくなったチーム(選手)の勝ちとします。

## 2 札の並べ方

- (1) 50枚の札を裏返した状態で混ぜ合わせ、25枚ずつ取ります。  
(5枚の山を作りながら行くと、札数が数えやすく作業がスムーズです)
- (2) 競技場内に貼ってあるラインテープの幅の範囲内に、札を並べます。
- 源平戦** 120cmの幅の中に、上段12枚、下段13枚の2段に並べます。
- 個人戦** 87cmの幅の中に、上段8枚、中段8枚、下段9枚の3段に並べます。



- (3) 対戦相手の札との間隔は3cm(畳の目3つ分)、上(中)下段の間隔を1cm(畳の目1つ分)にします。
- (4) 札を並べる時間を含み、3~5分間の暗記時間を取ります。  
おおよその選手が並べ終わった時点で「〇〇時〇〇分から始めます」とアナウンスします。札は、スムーズに並べてください。
- (5) 対戦中は、札の移動はできません。  
札を取ったり取られたりして、札と札の間が空いてもそのまま続けます。  
ただし、札の向きが乱れた場合は、まっすぐに直すことはできません(※)。  
※ 対戦相手(と審判員)に「札を整理します」と伝えてから直します。

3 開始の礼

試合の開始時に、①対戦相手、②読手 の順に「お願いします」のあいさつとともに、礼をします。

4 読み

(1) 1 首目の前に、読手が序歌じょかを読みます。(序歌は、下の句を 2 回詠みます)

序歌「難波津に咲くやこの花冬ごもり 今を春へと咲くやこの花」

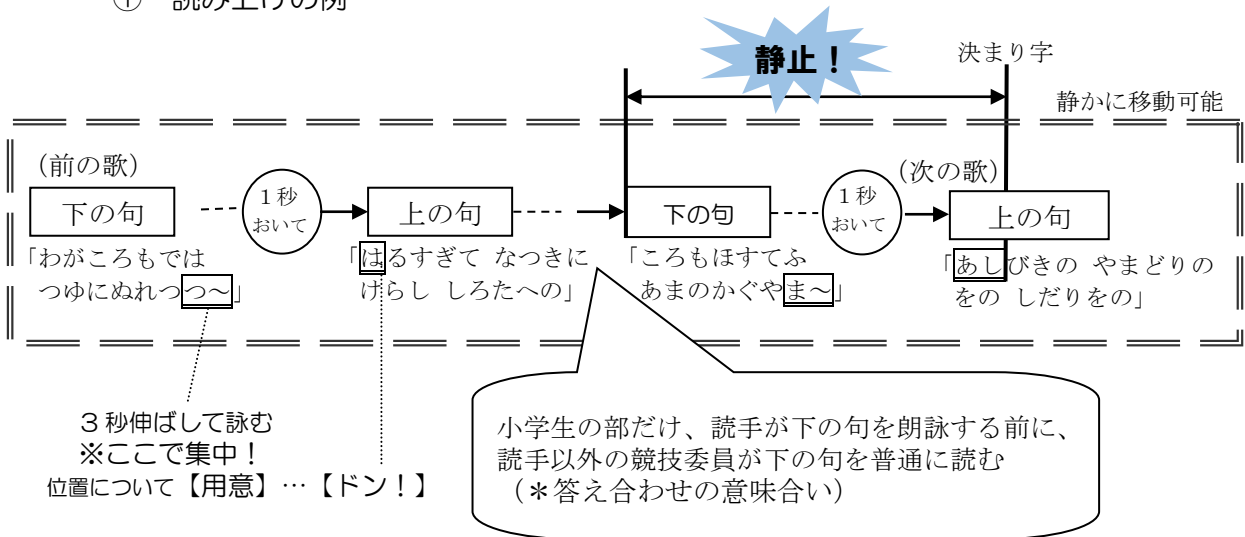
(2) 下の句に続いて、次の歌の上の句を読みます。

(3) ある程度の時間が経過したら、読手が下の句を読み、ひと呼吸おいて次の歌の上の句を読みます。

※ 札が取れなくても、次の句に移ります。

※ 取れなかった札については、巡回している審判員が気付いたら除き、札があった陣の取札とします。また、すでに読まれた札は、試合の途中であれば、いつでも、選手が気付いたら取ることができます。

① 読み上げの例



② 次の場合には、選手または審判員が手を上げ、読みを制止します。

- ア 正しい札が取られたかどうか疑義がある場合
- イ 乱れた札を整理している場合
- ウ 送り札のやりとりをしている場合

5 構えと取り方

(1) 競技中は、無理に正座をする必要はありません。

(2) 頭は中心線を越えることはできません。

(3) 上の句の読みが始まるまでは、両手を競技線より手前の畳につけた状態で読みを待ちます。



- (4) 札を取る手は、右手か左手かどちらか一方にします。  
途中で、決めた方と反対の手で取ったり、手以外の部分（ひじ・足・体など）で取  
ることはできません。違反した場合には、相手の取りとします。
- (5) 札を取る時は、払わず、押さえて取ります。
- (6) 札を取る手が重なった場合は、下の手の人の取りとします。
- (7) 同時の場合は、その札を持ち札としていた方の取りとします。
- (8) 取った札が正しいとは限らないため、お互いに確認し合います。
- (9) 取った札は、確認後に裏返して自分の背後（足元）にきれいに重ねておきます。

6	お手つき
---	------

- (1) 読まれた札が無い陣地の札に触れると、お手つきとなります。
- (2) 手以外の体の一部や服などが偶然に触れてしまっても、お手つきとはなりません。
- (3) 源平戦の場合、1首につき、1チームで何人がお手つきをしても、チームで1つ  
のお手つきと数えます。

7	送り札
---	-----

- (1) 相手陣の札（相手の持ち札）を取ったら、自陣の札（自分たちの持ち札）を1枚相  
手に送ることができます。
- (2) 相手が「お手つき」をしたら、相手に1枚持ち札を送ることができます。  
※ 源平戦の場合、チーム内で何人がお手つきをしても、1つのお手つきとして数え  
るため、送り札も1枚です。
- 《送り札の例》
- ① 自分が相手陣の札を取ったけれど、チームの人が別の札にお手つきをした場合  
⇒ 【札のやりとりはありません。】  
…取ったことで1枚札を送ってもよいですが、お手つきをしたことで自分た  
ちも1枚もらうこととなります。
- ② 相手に自陣の札を相手に取られ、さらに自分たちがお手つきをした場合  
⇒ 【札を2枚もらいます。】  
…取られたことで札を1枚もらい、お手つきをしたことで1枚もらいます。
- (3) 札を送るときは、札を相手のほうに向けて相手陣の空いているところに丁寧に送り  
ます。放り投げるようにして送ってはいけません。
- (4) 札を送るとき、どの札を送るかは自由で、送る方が決めます。源平戦では、チーム  
内の誰が選んでも構いません。また、一度送った札を変更することはできません。
- (5) 札を送り忘れても、次の歌が読み始められた後は、もう送ることはできません。
- (6) 送られた札を自陣のどこに置くかは、送られた方の自由です。相手が札を置いた場  
所から自陣の好きなところに並べ直してかまいません。（この場合は、札の移動には  
なりません。）

- (1) どちらかのチームの持ち札がなくなった時点で試合は終了します。  
(持ち札がなくなったチームが勝ちです。)
- (2) 試合が終了したら、①対戦相手、②読手 の順に、「ありがとうございました。」のあいさつとともに礼をします。
- (3) 場に残った札を数え、『勝敗 (O, X)』と『枚数差』を、対戦結果カードに記入します。(札は、5枚ずつの山にすると数えやすいです。)

■対戦結果カードの記入のしかた

- ・学校名 …既に記載されています。
- (・氏名 …既に記載されています。個人戦用対戦カードのみ)
- ・場所 …1回戦は受付係が記入し、2回戦以降は集計係が記入します。
- ・対戦相手…1回戦は受付係が記入します。  
2回戦以降は所定の場所に着いたら確認し、記入してください。
- ・勝敗 …勝ったら「O」、負けたら「X」を記入してください。
- ・枚数差 …その場に残った札の枚数を記入してください。  
勝った方も負けた方も同じ数字になります。

- (4) お互いに協力し、使用した札の整理と50枚あることの確認をします。
- (5) 札の整理・確認が終わったら、記入し終わった対戦結果カードを持って、静かに競技場内から退席します。  
※ 足がしびれてしまった時は、慌てて退席しようとせず、歩けるようになるまで静かに待ちます。
- (6) 対戦結果カードを、集計場所に提出し、次の対戦場所を確認します。
- (7) 退席時の注意事項

読手が歌を読み上げているときは、その場で静止しなければなりません。読みの合間に、静かに移動するように心がけてください。  
私語も厳禁です。他の対戦の妨げとならないようにルールを守りましょう。

- (8) 対戦が終了したチームは、次の試合が始まるまでの間は、控室で休憩したり、水分補給をしたり、トイレにいったりするなどをして待機します。
- (9) 1回戦で負けた選手は、2回戦以降の時間に交流戦ができます。  
2回戦で負けた選手は、3回戦の時間に交流戦ができます。

- (1) 取りやお手つきなどの判定は、原則競技者同士で行います。
- (2) 判定に対して疑問がある場合には、審判員に判定を求めることができます。
- (3) 審判員の判定には、必ず従います。
- (4) お手つきがあった場合など、送り札を何枚渡せばよいのかわからなくなることもあるかもしれませんが、その場合には審判員に聞いてください。

- (1) 競技中は席を離れることはできませんが、やむを得ない事情があるときは、対戦相手と審判員にその旨を伝えてから離席してください。ただし、離席中であっても競技は続行します。
- (2) 空札（その場の50枚の中に無い札）も読みます。  
お手付きをした場合は、選手同士で確認し、速やかに札を送ってください。
- (3) 禁止行為
  - ① 読手、審判員及び対戦相手への抗議、示威行為等の礼節を欠く行為。
  - ② 競技中の私語、声援その他の音を出す行為。特に読みが始まってからの移動、発声その他の音を出す行為は厳禁。
  - ③ 競技場内での飲食。